

言葉を探す、心を探す

小さな命の意味を考える会 代表 佐藤 敏郎



1963年宮城県石巻市生まれ。東松島市立矢本第二中学校主幹教諭。防災、国語を担当。震災で石巻市立大川小学校6年生(当時)の次女が犠牲に。遺族らで作る「小さな命の意味を考える会」を主宰し、HPや講演で様々なメッセージを発信している。女川さいがいのFMのパーソナリティーとしても活動。女川中学校での俳句の授業が書籍、テレビ等で話題となる。

平成二十三年度は、牡鹿半島の海の町、女川の中学校に勤めていた。

何もかも流された町でスタートした新学期。この前まであった建物が跡形もない、笑って声を交わした人も、いない。教師は生徒を励ます仕事なのだが、「頑張り」なんてとても言えない日々が続いていた。「希望」とか「絆」といった言葉を耳にすることが多かったけれど、そこに生徒たちを、自分自身を、どう向かわせればいいのか。そんな五月、生徒に俳句を作らせようという提案があり、国語科の私が授業を担当することになった。町はまだ瓦礫に埋もれ、家族を亡くした生徒もいる。「素直な気持ちで五七五に」と言われたが、そんなことをしているのかと、直前まで大いに迷った。

どんなことを書いているのだろうかと思ふと、こんな句が目飛び込んできた。見上げれば がれきの上に こいのぼり

瓦礫だらけの町で、下ばかりむいてちやたまだと思つて顔を上げたら、壊れた建物の上に、誰かがあげた鯉のぼりが泳いでいたという句である。解説も写真もない、たった十七音の文字を並べただけなのに。津波の威力、悲しみ、無力感、希望、すべて伝わってくる。

五月末、例年より一ヶ月半遅れの授業参観日があつて、資料の裏表紙に俳句を掲載した。多くの保護者が泣きながら読んでいた姿が忘れられない。

俳句は字数が限られているので、言葉を吟味することになる。大人でさえ言葉を失うような状況の中で、生徒達は必死に言葉を探した。自分の心を探したのだ。「これだ」という言葉にたどり着いたとき、前へ進める何かが生まれたように思う。

以後、全校句会は半年ごとに行われることになり、私が転動してからも続いている。風景や心情の移り変わりが感じられ、興味深い。たとえば、震災の一年後、吹奏楽部の生徒がこんな句を詠んだ。

あつたかい音のする支援のフルート

あつたかい音のする支援のフルート

あつたかい音のする支援のフルート

次号は、慶應義塾大学准教授 地震学者の大木聖子さんをお願いいたします。

※本コーナーは、弊会ホームページでもご覧いただけます。

女川中学生の句 (抜粋)

平成23年5月の句

女川は今何色に見えますか
みあげれば がれきの上に こいのぼり
ただいまと聞きたい声が聞こえない
夢だけは壊せなかった 大震災
将来は幼い子どもに今を伝える
ガンバレと ささやく町の 風の声
故郷を 奪わないでと 手を伸ばす
見たことない 女川町を 受け止める
青い空 見守っていてね いつまでも
今は亡き おぼと歩いた 浜の道
晴れの日は 海がキラキラ 宝石箱
町も私も 復興とともに 育つてく
うらんでも うらみきれない 青い海
ありがとう 今度は私が がんばるね
逢いたくて でも会えなくて 逢いたくて
みんなの前 笑えていかな 自分の顔
海水についたすずらん 咲いていた
今思う 俺は女川大好きだ

平成23年11月の句

空の上 見てくれたかな 中総体
あの人が 帰ってきた 夢を見た
空見ると 自分だけかな 虹見えた
震災後 夢で見た祖母に 手をふられ
女川の 止まった時間 動き出す
震災で 約束守れず 今悲し
和歌山で見た 故郷への募金箱
ボール手に あの日遊んだ 場所さがし
教室の窓から見た ショベルカー
この空は 遠い人とも つながってる
自分自身 前に進むと 日々思う
この町と 一緒に成長していきたい
白球を 追つたあの場所 仮設建ち
あの雲に 悲しさすべて 流しこむ
聞いちゃった 育つた家を こわす日を

平成24年5月の句

教室から 見えるあの場所 あの時が
あの空に あの空の上にいるんだね
いつまでも 震災のせいには してられない
サイレンの時だけしやべる 心の中で
がんばれと 言われなくても 分かっている
今思う あの時空まで 黒かった
友達よ 九州で今 何してる
希望の芽 小さく咲いている 道ばたに
星空に 届けばいいな みんなの句
何もない 女川町に 桜咲く
顔上げて 見あげる空に 壁はない
向かい風 負けじと 私 歩を進め
春がくる それぞれの夢 咲きほこる
中総体 シュートに込める ありがとう
あつたかい音のする 支援のフルート
おぼあさん もう一年が 過ぎたのか
今分かる 幸せなのは この毎日
この夏は 必ず入るから 女川の海

平成24年12月の句

ガガガガガ ありがたい音 復興へ
前を見て 最初に見えた みんなの目
塚浜で ひろつた貝から 波の音
あたたかい 気持ちで十分 サンタさん
十七文字 忘れた思いが 届かない
神様にお願ひしたけど 届かない
思い出を 語りながら 笑い泣き
本当は すぐ会いたい 亡き祖母に
女川の 願いを叶えて 流れ星
スタートだ 夢見た場所に 立つために
この背中 押してくれたの 支援の輪
星空へ 誓い続ける 頑張ると
気づいてよ まだまだ 待ってる SOS
毎日が カラフルな日 になっていく
あの日から 誰かが 必ずそばにいる
さあ行こう 未来輝く 女川へ

平成25年5月の句

空の友 「行つてきます」と 心の中
ワンコイン 未来のための 百円募金
震災を 理由にしては 進めない
溢れ出す 涙は遠い 海の味
今年の春 去年と違う 決意あり
石巻線 希望をのせて さあ出発!
広大な 宇宙にぼつんと いる自分
震災後 交換ノート 再スタート
あの日から 私の毎日 早送り
背が伸びた あの頃よりも 二十センチ
一人はねさみしいんだよ おぼあさん
物が 増え 置く場所が 休みの日
気がつけば 町のがれきに 花が咲く
ありがとう 言えよ 届かない
故郷よ 希望をもって 明日に行く
狭い仮設は 新しい思い出 いっぱい

平成25年11月の句

あのまま 動き出さない 大時計
女川に 希望の雨よ 降り注げ
「さようなら」今も聞こえる 君の声
空見上げ 今亡き祖母を 思い出す
あの日から 毎日空は 見てくれた
ありがとう やさしい笑顔 夢を見た
変わらぬ 何日たっても 変わらない
家がない やつと分かった そのつらさ
夢に見た 命の石碑が 目の前に
「頑張り」 声が聞こえる 青い空
窓の外 想いつまった 石碑見え
何もかも 全てを包む 朝の光
あの日から 一歩ずつでも 踏み出せた
碑の裏に 映るのは 今の海
星空を見上げて 思う 過去のこと
いつになる 「あの日」という意味 変わるの
除幕式 あの日に 違う 快晴の空
伝わるよ 強く長く 想つていれば



祝 女川町立女川中学校開校式

